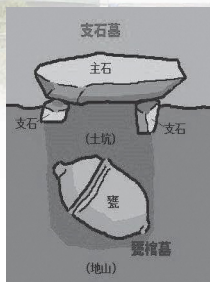


# 鹿部、美明

(ししぶ、みあけ)

さかのぼると弥生時代には銅剣、銅矛(どうほこ)、  
古墳時代には田淵遺跡の建物群。  
いつの時代にもこの地には人々の暮らしがあった。  
ひと昔前まで共同浴場や共同井戸があり、  
古賀の浜では青年団や子どもたちの地引網。  
豊かなこの地域には、私たちが忘れかけている人々の助け合いや  
賑わい、子どもたちの笑い声があった。  
そして今、時代を継承発展する新しい街、  
『美明(みあけ)』が誕生しています。



## 皇石神社(おおいしじんじや)

鹿部山皇石神社神殿後方の斜面から発見された甕棺。(想像図地中断面図)

皇石神社の祭神は、埴安(はにやすの)神で、古く享禄3年(1530年)の神殿再建の棟札によれば大石大明神と呼ばれ、神体石は平たく巨大な立石です。明治31年には、神殿後方の斜面から合わせ甕棺(かめかん)より銅剣と銅矛(どうほこ)が発見され、弥生時代の貴重な甕棺墓遺跡として学会の注目するところとなりました。



## 鹿部大池

かつてこの地(現・JRししぶ駅東口周辺)にあった鹿部大池には、多くの人々の様々な思い出が眠っている。通称「蓮根池」と呼び親しまれたとおり、そこにはたくさんの蓮が咲いていた。(写真:平成10年8月の鹿部大池)



## 日吉神社

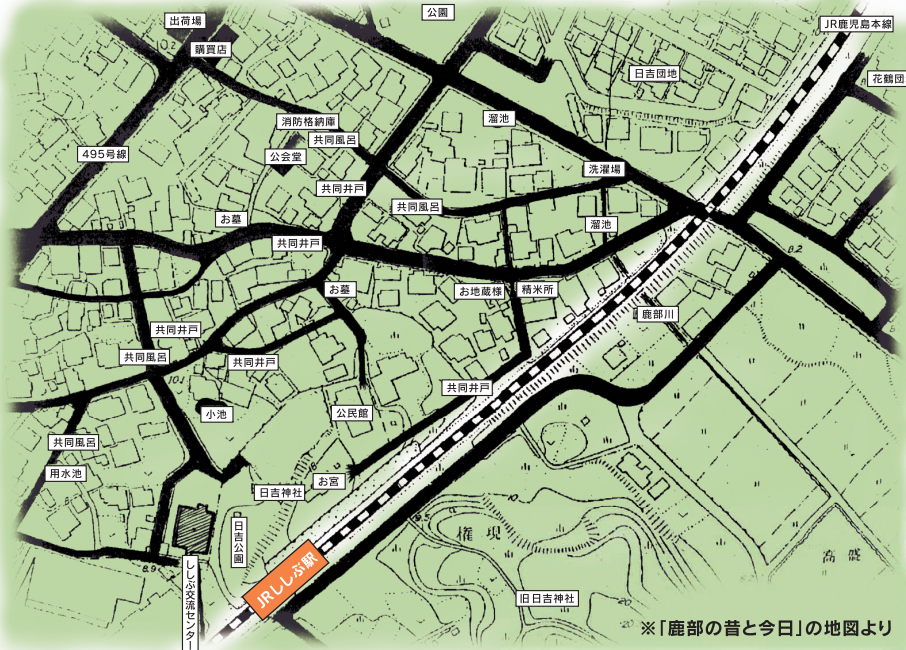
古賀に縁深い最澄(伝教大師)ゆかりの比叡山の鎮守神として大山咋神(おおやまくいのかみ)をまつた神社。昭和35年、現在地に移る。



## みあけ史跡公園



「日本書紀」に記述された「糟屋屯倉(かすやのみやけ)」の候補地といわれている鹿部田淵遺跡(県指定史跡)を保存し整備した歴史公園で、現在の住所から「みあけ史跡公園」と名付けられ、平成22年11月に保存されている。「歴史に学ぶ 緑の丘」をテーマとした園内は、道路を挟み南北2カ所に分かれ、発掘時の地形と同じ緩やかな勾配をもつ芝生敷きの広場に建物を立体的に復元されている。



※「鹿部の昔と今日」の地図より



## JRししぶ駅

平成21年3月に誕生したJRの駅です。駅東口にあるメインモニュメントは「蓮・蓮根」のイメージの中に過去と現在・未来を往来する「窓」を表現しており、モニュメントを囲む8本の柱は、「糟屋屯倉」をイメージしている。



## 古賀ゴルフ・クラブ

昭和23年に開業した白砂青松の海浜勾配を利用した自然美あふれる九州随一の名門ゴルフクラブ。平成9年に開催された九州初となる第62回日本オープンゴルフ選手権競技では優勝スコアが2オーバーパーだった事からもその難しさがかがえる。平成20年10月に第73回、令和元年10月にも第84回日本オープンゴルフ選手権競技が開催されました。ゴルフ愛好家なら一度はプレーしたくなるシーサイドコース。

## 糟屋屯倉(かすやのみやけ)

糟屋屯倉とは、日本書紀の記述によれば、北部九州の豪族・筑紫君磐井が大和朝廷に敗れ、磐井の子葛子(くずこ)が命乞いに朝廷へ糟屋屯倉を献上したとあり、穀物類を貯蔵していた倉庫群だと思われる。また、記述内容から対外交渉の窓口として港との関連の強い拠点施設として、また北部九州の支配確立の先駆けとして半島情勢への対応を意図した政治的拠点施設として設置された大和政権の出先機関であると考えられている。

## 宮座

10月半ばに行われる五穀繁盛のお祝い。地域の人たちが集まるその光景はなんと素晴らしい。

## 競り会(けいりかい)

牛を使って田んぼを耕し、その技術を競う大会で、今という消防団の操法大会みたいなもの。地区大会、郡大会、県大会まであったそうです。

## 共同風呂

時代をさかのぼれば、一軒一軒にお風呂がないのは当たり前のことではあるが、共同風呂とはなんと風情が感じられる。

## 神もどし、神わたし

10月後半から始まる出雲の縁結び。出雲に行くのを神わたし。出雲から帰ってくるのを神もどしという。地域の人たちが出かけたいそうです。